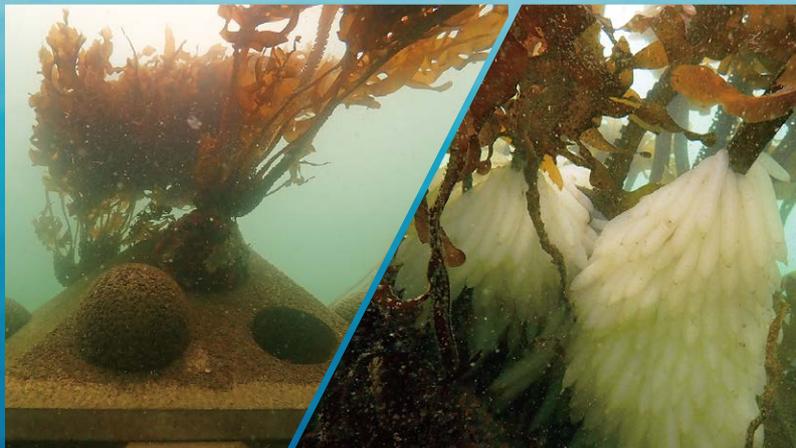


香川大学 環境報告書 2025

KAGAWA UNIVERSITY ENVIRONMENTAL REPORT 2025



CONTENTS

※目次の○は
該当するSDGsナンバー

- 学長挨拶 1
- 大学概要 2
 - 大学概要／沿革／キャンパスマップ
- 環境マネジメントの概要 3
 - 環境配慮の方針／環境コミュニケーション
 - 環境目標・実施計画及び実績／エネルギー管理体制図
- SDGsアクションプラン 7
 - 香川大学SDGsアクションプランについて
- 環境研究活動の紹介 8
 - ・藻場からはじまる豊かな瀬戸内海の創生 7 9 13 14
 - ・希少糖イノベーションの共創的価値化向上と
エコシステム型の知の拠点形成プロジェクト 9 2 6 14 15
 - ・海の恵みと課題が出会う場所「潮目」 12 14
 - ・未利用資源「希少糖廃シロップ」のアップサイクル技術 9 11 12
- 環境教育による人材育成 12
 - 大学の環境教育
 - ・環境システム論 13
 - 教育学部附属学校園の環境教育
 - ・地域のもったいない食材がカレーに!?
地域課題解決!レトルトカレープロジェクト! 14 11
 - ・ぼくたち・わたしたち 坂出「よくし隊」 13 14
- 地域への環境貢献 16
 - ・瀬戸内海分校プロジェクト 14 4 15 17 11
 - ・能登半島地震被災地支援活動 11
 - ・まんのう町魅力発信プロジェクト 11 17
 - ・インクルーシブ教育システムの実現に向けた
特別支援学校の取組 4 10
- 学生主体の活動 19
 - ・SechU～瀬戸内から地球とあなたに優しく～ 12 14
 - ・香川大学衣料品交換会 12
 - ・学生の力で国際支援に取り組む 3 4
 - ・香川の水族の移動展示 4 14
- 国際貢献活動 21
 - ・メキシコの先住民による
「地域密着型エコツーリズム」の仕組みづくり 11 13 15
- 環境負荷の低減活動 22
 - エネルギー使用量削減目標と実績／マテリアルバランス
循環水利用の取り組み／新エネルギー導入による環境負荷低減
排水の水質に係る管理状況／大気汚染物質に係る管理状況
フロン類の適正管理／グリーン購入・グリーン契約
化学物質等の適正管理／環境に関する法規制の遵守
- 第三者意見 31
- 環境報告ガイドライン対照表 32
- 編集後記 33

環境報告書の対象範囲等

- 環境報告書対象キャンパス：全キャンパス
(職員宿舍、借用地を除く)
- 対象期間：2024年(令和6年)4月～2025年(令和7年)3月
- 参考にしたガイドライン：「環境報告ガイドライン(2018年版)」
(平成30年6月 環境省)
- 公表方法：香川大学ホームページにて公表
- 発行年月：2025年(令和7年)9月

環境報告書とは、事業者が自らの事業活動に伴う環境負荷の状況や環境配慮の取組などの環境情報を総合的に取りまとめて公表する年次報告書である。

表紙について

表紙では、①瀬戸内海分校プロジェクトにてアートと科学の知を重ね合わせて地域が直面する課題解決を目指して取り組む学生の活動、②能登半島地震被災地支援活動として不要家財の搬出を行う学生の様子、③開発した藻場造成構造物に着生した海藻の繁茂の様子を紹介しています。裏表紙には、潮目に生物・海藻、ごみが集まり、数キロにわたる明瞭なラインが形成されている写真を掲載しております。

表紙、裏表紙で紹介した活動は本誌にてご覧いただけます。また、その他地球環境保護に向けた多様な取り組みも併せて掲載しておりますので、ぜひ一読ください。



裏表紙

表紙

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



香川大学は、持続可能な開発目標(SDGs)達成に向けて積極的に取り組んでいます。



香川大学環境報告書

検索



この環境報告書は、香川大学ホームページでも公表しています。

<https://www.kagawa-u.ac.jp/information/approach/environment/>



学長挨拶

香川大学は「持続可能な地方分散型社会の実現に貢献する人材の育成と研究の推進」をビジョンに掲げ、知の拠点として地域の活性化・魅力化に貢献することをミッションとし、将来世代が豊かに暮らすことができる社会の実現に向け教育研究活動を展開しています。

「Sustainable Development Goals (SDGs)」は、2015年9月の国連サミットで採択された、2030年までに持続可能な、より良い世界を目指す国際目標であり、本学が目指す未来社会のあり方と方向性を一にするものであります。

このことを踏まえ、本学では、第4期中期目標期間(2022～2027年度)において、社会との共創の目標に係る計画の一環として、地域社会の課題解決に資するSDGsの活動推進を掲げ、産業界や自治体、地域コミュニティと協働し、様々な背景を持つ研究者の「つながり・結合」を活用しながら、未体験の価値を創造し、強靱で幸福感の溢れた地域社会の構築に貢献する人材の育成と研究活動を展開しています。



香川大学長

上田夏生
うえだ なつお

香川大学環境報告書2025では、本学の教育・研究・社会貢献活動について、「香川大学SDGsアクションプラン」の中で定めたSDGs推進プロジェクトをはじめとする、2024年度に実施した様々な取組や成果を紹介しています。環境研究として、『藻場からはじまる豊かな瀬戸内海の創生』『希少糖イノベーションの共創的価値化向上とエコシステム型の知の拠点形成プロジェクト』を始めとした様々な取組を紹介しています。地域への環境貢献では、2024年度に新築した「香川大学芸術未来研究場せとうち」で行われた香川県・東京藝術大学・香川大学 瀬戸内海分校プロジェクト『「ひととらうみ」展』など、学生主体の活動では、地域・社会の発展に貢献することを目的として、学生が主体的に行う独創的なプロジェクト事業「香大生の夢チャレンジプロジェクト」の1つである『Try! 魚っち』など、何れの取組も本学ならではの特色あるものとなっておりますので、ご一読いただくと幸いです。

本学では、学生がいいきいと輝き、チャレンジできる多様な機会を設けるとともに、地球規模の課題や地域社会の課題の解決につながる教育・研究・社会貢献活動に注力してまいります。

皆様からさらなるご支援とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

大学概要

● **学校名**

国立大学法人 香川大学

● **土地・建物面積** ※2025年(令和7年)5月1日現在

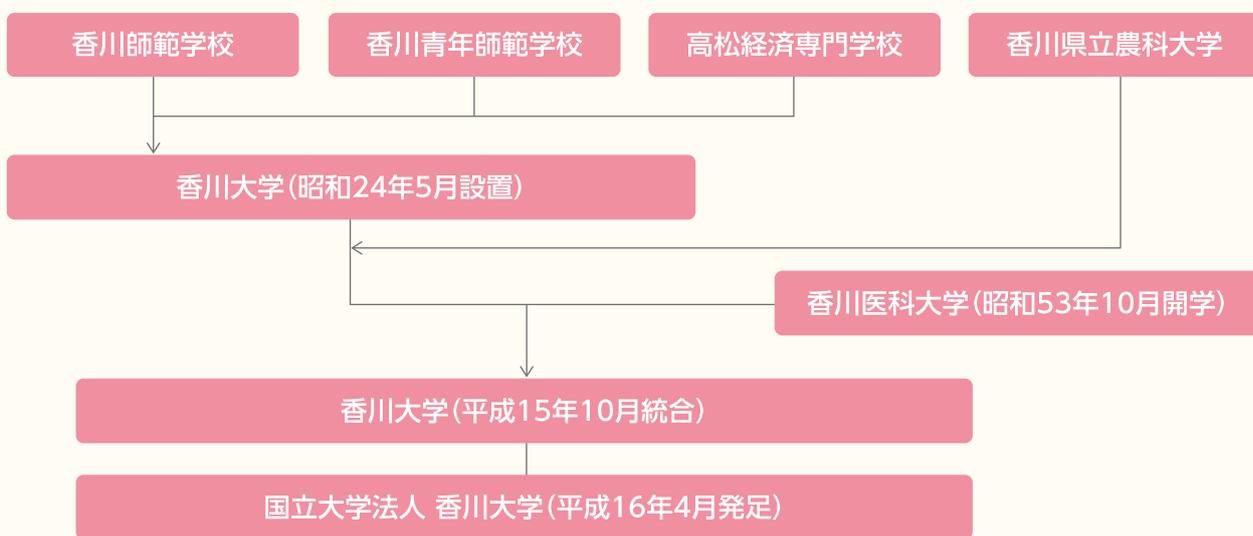
土地：949,457m²

建物：325,794m²

● **教職員・学生数** ※2025年(令和7年)5月1日現在

区分	人数
役員	8
教職員	2,035
学部生	5,635
大学院生	865
附属学校園	1,805
合計	10,348

沿革



キャンパスマップ



※2025年(令和7年)4月1日現在

- 1 **幸町キャンパス**
大学本部／教育学部／法学部／経済学部／創造工学部／創発科学研究科／地域マネジメント研究科
- 2 **三木町医学部キャンパス**
医学部／医学部附属病院
- 3 **林町キャンパス**
創造工学部／創発科学研究科
- 4 **三木町農学部キャンパス** 農学部
- 5 教育学部 附属高松小学校／附属幼稚園高松園舎
- 6 教育学部 附属高松中学校
- 7 教育学部 附属坂出小学校／附属坂出中学校／附属幼稚園
- 8 教育学部 附属特別支援学校
- 9 農学部附属農場
- 10 庵治マリンステーション
- 11 芸術未来研究場せとうち

大学概要

環境マネジメントの概要

SDGsアクションプラン

環境研究活動の紹介

環境教育による人材育成

地域への環境貢献

学生主体の活動

国際貢献活動

環境負荷の低減活動

第三者意見

環境報告ガイドライン対照表

編集後記



環境マネジメントの概要



環境配慮の方針

基 | 本 | 理 | 念

香川大学は大学憲章に基づき、豊かな自然環境を有する瀬戸内圏における知の拠点として、世界水準の教育・研究活動を通し、環境配慮に関する活動を広く発信します。また、環境活動の面でも中核となり、地域及び地球全体の環境保全に取り組み、持続的な社会の発展に貢献します。

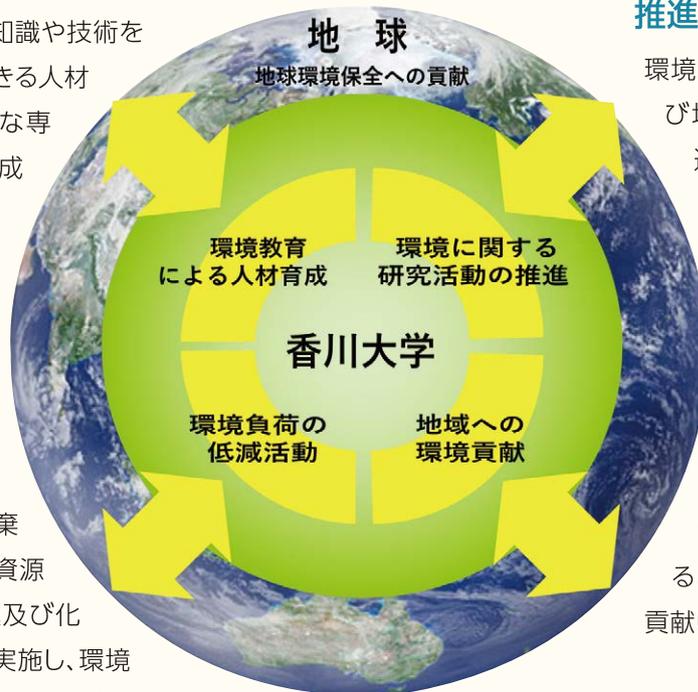
基 | 本 | 方 | 針

1 環境教育を重視する大学をめざす

環境に関する基礎的な知識や技術を有し、取り組みを率先できる人材及び環境に関する高度な専門性を有する人材を育成します。

4 人にも環境にもやさしい大学をめざす

教育・研究活動において、省エネ、省資源、廃棄物の適正管理・削減・再資源化、グリーン購入の推進及び化学物質の適正管理等を実施し、環境負荷の低減に努めるとともに環境マネジメントシステムを確立し、エコキャンパスをめざします。



2 環境に関する研究活動を推進する大学をめざす

環境に関する先進的な研究及び地域に密着した研究を推進し、環境に関する科学の発展と環境問題の解決に貢献します。

3 地域と共に歩む大学をめざす

環境に関する研究成果や情報を地域に発信し、地域社会との連携をはかるとともに地域の活性化に貢献します。



環境コミュニケーション

香川大学では、香川大学のホームページ、広報室、図書館などを通して、環境情報の開示を積極的に行っています。

●環境報告書の発行

2006年度(平成18年度)から、環境報告書を冊子・Webで公表しています。

学内関係者とのコミュニケーションツールとして、香川大学の環境に関する研究・教育活動・環境配慮活動の取り組み状況、地域とのコミュニケーション状況などの情報を公開しています。

《公開URL》

<https://www.kagawa-u.ac.jp/information/approach/environment/>





環境目標・実施計画及び実績

香川大学の環境目標と実施計画及び2024年度(令和6年度)の実績は下表のとおりです。

環境方針	環境目標	実施計画
1. 環境教育による人材育成	環境教育を充実させ、環境意識を向上させる	①大学での環境教育カリキュラムを充実させ、環境に関する基礎力及び応用力を育成する
		②生徒・児童に、環境に関する基礎的な教養を育む
2. 環境に関する研究活動の推進	環境関連研究を推進する	①環境保全に貢献する研究を推進する
		②外部との研究協力体制を推進する
3. 地域への環境貢献	地域への情報発信を積極的に行う	①環境報告書の発行により、地域に情報を発信する
	地域社会との連携をはかり、地域の活性化を推進する	②地域のニーズにあわせたイベントを実施する
		③地域の清掃活動を実施する
4. 環境負荷の低減活動	「香川大学省エネルギー対策に関する規程」及び「エネルギー管理に関する基本計画」では、2024年度から2028年度(5年間)までの期間中に、エネルギー使用量及び温室効果ガス排出量を2022年度を基準とし、原単位(建物延べ床面積当たりのエネルギー使用量及び温室効果ガス排出量)で5%削減することを努力目標とする	①省エネ施策の実施と啓発活動を行い、エネルギー使用量を削減する
	省資源を推進し、紙、水使用量を削減する	②省資源施策の実施と啓発活動を行う
	廃棄物を適正に管理する	③廃棄物の適正な処理・リサイクルを行う
	グリーン購入法を推進する	④グリーン購入を実施する
	化学物質を適正に管理する	⑤化学物質を適正に管理する

大学概要

環境マネジメントの概要

SDGsアクションプラン

環境研究活動の紹介

環境教育による人材育成

地域への環境貢献

学生主体の活動

国際貢献活動

環境負荷の低減活動

第三者意見

環境報告ガイドライン対照表

編集後記



※判定欄の記号は下記の判断内容としました。

- ◎：目標を達成した。
- ：一部は目標を達成できなかったが、十分な取り組みを行った。
- △：取り組みは行ったものの、目標を達成できなかった。

2024年度(令和6年度)実績	関連ページ	判定*	次年度の取り組み・将来の見通し
①各学部、大学院で環境に関する講座、実習を充実させた	12-15	◎	引き続き、大学での環境教育カリキュラムを充実させ、環境に関する基礎力及び応用力を育成する
②理科や社会、総合学習、校外活動などの授業により、環境に関する学習を充実させた		◎	引き続き、生徒・児童に、環境に関する基礎的な教養を育む
①環境に関する研究を実施した	8-11	◎	引き続き、環境保全に貢献する研究を推進する
②産学官交流を推進し、共同研究などを実施した		◎	引き続き、外部との研究協力体制を推進する
①環境報告書2024を発行し、さらに香川大学ホームページに掲載した	3	◎	引き続き、環境報告書の発行により、積極的に地域に情報を発信する
②公開講座やシンポジウム、研修会、講師派遣などを実施した	17, 18	◎	引き続き、地域のニーズにあわせたイベントなどを実施する
③キャンパス内におけるクリーンキャンパスの活動をはじめ、地域の清掃活動を実施した	15, 19, 27	◎	引き続き、地域の清掃活動を実施する
①基準年度(2022年度)比は以下のとおり ・総エネルギー使用量原単位：0.9%減 ・温室効果ガス排出量原単位：8.2%減 〈主な省エネルギー対策〉 ・空調の適切な温度設定 ・省エネルギー効果の高い空調機、LED照明の導入 ・照明等のごまめな電源OFF ・階段の利用、ポスター掲示などによる活動の啓発	22-26	◎	引き続き、省エネ施策の実施と啓発活動を行い、エネルギー使用量を削減する
②前年度比は以下のとおり ・紙：10.9%減 ・水：2.5%増 〈主な省資源対策〉 ・紙：電子データ化、両面印刷、裏紙利用の実施 ・水：節水シールの貼付、節水型設備への更新、止水栓の調整、循環水の利用など	27	○	引き続き、省資源施策の実施と啓発活動を行う
③廃棄物量は以下のとおり ・一般廃棄物排出量：832t ・産業廃棄物排出量：739t 前年度比1.9%増 〈主な低減対策〉 ・ゴミの分別、再資源化、リサイクルの実施 ・適正な業者による産業廃棄物処理	27	○	引き続き、廃棄物の適正な処理・リサイクルを行う
④特定調達品目の達成状況 ・調達達成率100%(主な特定調達品目：紙類、文具類など)	29	◎	引き続き、グリーン購入を実施する
⑤化学物質の管理状況 ・法令遵守 ・施設保管庫での管理、管理記録簿への記載	30	◎	引き続き、化学物質を適正に管理する

大学概要

環境マネジメントの概要

SDGsアクションプラン

環境研究活動の紹介

環境教育による人材育成

地域への環境貢献

学生主体の活動

国際貢献活動

環境負荷の低減活動

第三者意見

環境報告ガイドライン対照表

編集後記



エネルギー管理体制図

※2025年(令和7年)4月1日現在

エネルギー管理責任者

大学概要

環境マネジメントの概要

SDGsアクションプラン

環境研究活動の紹介

環境教育による人材育成

地域への環境貢献

学生主体の活動

国際貢献活動

環境負荷の低減活動

第三者意見

環境報告ガイドライン対照表

編集後記

学 長

エネルギー管理統括者
(理事・副学長(財務・施設・産官学連携担当))

エネルギー管理企画推進者
(施設企画課長)

- 教育学部長
- 法学部長
- 経済学部長
- 医学部長
- 創造工学部長
- 農学部長
- 創発科学研究科長
- 地域マネジメント研究科長
- 図書館長
- 博物館長
- 四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構長
- 国際希少糖研究教育機構長
- 教育推進統括拠点長
- 情報化推進統括拠点長
- 地域人材共創センター
- 研究基盤センター長
- バイオインフォマティクス解析センター長
- 微細構造デバイス統合研究センター長
- 瀬戸内圏研究センター長
- 産学連携・知的財産センター長
- 国際ナショナルオフィス長
- 保健管理センター長
- 研究戦略室長
- 地域・産官学連携戦略室長
- 広報室長
- ダイバーシティ推進室長
- イノベーションデザイン研究所長
- 法人本部(施設環境部長)



SDGsアクションプラン



香川大学×SDGsACTION
ホームページ



香川大学SDGsアクションプランについて

本学では、第4期中期目標期間(2022~2027年度)において、社会との共創の目標に係る計画の一環として、地域社会課題の解決に資するSDGsの活動推進を掲げるとともに、SDGsアクションプランを策定し、多様な取組を展開しています。

当該アクションプランに基づき、重点推進領域とつながる推進課題/推進プロジェクトとして設定した取組に対し、昨年度同様、経費的支援を行うなど、地域課題の解決に資する取組を推進しています。また、SDGsに関する取組について、ホームページ等を通じて積極的な情報発信を行っています。

香川大学SDGsアクションプラン[概要]

香川大学ビジョン
持続可能な地方分散型社会の実現に貢献する人材の育成と研究の推進
知の拠点として地域の活性化・魅力化に貢献することをミッションとし、50年先の将来世代が豊かに暮らすことができる社会の実現に向け教育研究活動を展開

SDGs推進の基本方針

- 全学体制の下で、活動を把握し推進
- 学長戦略経費等を活用し、取組を積極的に支援
- 重点推進領域、主要な課題に対応するプロジェクトを設置
- 活動状況や実績を社会に発信し、ステークホルダーと共有・連携

3つの重点推進領域

- ダイバーシティ** 誰もが活躍できる学内環境整備と学外連携の促進
- カーボンニュートラル** エネルギー関連課題の解決と気候変動対応
- サステナブルライフ** 健康増進、環境保全、資源循環

推進課題と推進プロジェクト

重点推進領域とつながる推進課題/推進プロジェクトを設定し、多面的に展開

- ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)推進/D&I推進
- SDGs推進入り組/SDGs教育
- ゼロカーボンキャンパス/安全性・快適性と両立するゼロ・ボン・キャンパス
- 資源再利用による脱炭素化/資源再利用による材料の高機能化と脱炭素化
- 地域モビリティ/持続可能な地域づくりの実証研究
- 瀬戸内環境・水資源持続性強化/水・土壌・陸域資源活用研究/環境環境持続性強化・実証研究/環境・瀬戸内良の水・物質循環/水・土壌・陸域資源活用研究/環境環境持続性強化・実証研究
- ポストコロナ時代の心と体の健康づくり/包括的健康イノベーションの創出
- 希少種イノベーション/希少種イノベーションの創出/希少種イノベーションの創出/希少種イノベーションの創出
- コミュニティ再生/地域課題解決のためのSDGs推進強化/学生チャレンジ支援

3つの重点推進領域とこれにつながる推進課題/推進プロジェクトに係る取組(一部抜粋) (重点領域 ●ダイバーシティ ●カーボンニュートラル ●サステナブルライフ)

●● 推進課題: D&I推進 プロジェクト名: D&I推進プロジェクト

※令和6年度取組内容

①教育・啓発活動の実施

- ・D&Iマスター制度を導入し、19名が修了
- ・D&Iをテーマとした講義の開講・出講
- ・全学生が「D&I」について学ぶ機会を持つ仕組みを構築
- ・D&Iフェスタの開催
- ・D&I学生プロジェクトメンバーによるワークショップを開催
- ・アンコンジャスバイアス研修を実施



③男女共同参画の推進

- ・教育研究評議会評議員として各学部・研究科の女性教員から1名ずつ登用
- ・初の女性常勤理事・副学長に本学事務職員を登用

④女性研究者の裾野拡大

- ・自治体や民間企業と連携し、JST令和6年度女子中高生の理系進路選択支援プログラム事業を展開。年間15件のイベントを実施し、延べ462名の女子中高生及びその保護者、中高教員が参加



②環境整備

- ・通称名の使用に加え、学生が自認する性別使用の申出ができる制度を整備
- ・多目的トイレのサインを性の多様性に配慮した表示に統一



D&I推進の基本方針(令和3年10月1日制定)に基づき、これまで男女共同参画推進室が進めてきた取り組みをベースとして、より広い視野でのD&Iの実現を目指し、学生の修学環境、教職員の職務環境・研究環境の整備等、全構成員に対するダイバーシティ推進のための啓発活動を実施しました。

●● 推進課題: コミュニティ再生 プロジェクト名: 地域課題解決のためのSDGs推進強化

コミュニティ再生には、地域の多様な資源や課題を探求し、持続可能な社会の創造につながる取組を積極的かつ主体的に推進していくことが重要です。そのため、令和6年度「SDGs加速推進経費(地域課題解決型)」において、地域(香川県)における課題解決に向けた取組を推進支援しました。コミュニティ再生を主眼とした社会的インパクトが見込まれる取組を全学から公募のうえ、7件を採択し、様々な視点、切り口から地域課題の解決に取り組んでいます。

※令和6年度取組支援例
「瀬戸内地域活性化プロジェクトにおける海ごみ調査プロジェクト」



(離島海ごみ調査・清掃活動)



(さぬき市北原海岸清掃)

大学概要

環境マネジメントの概要

SDGsアクションプラン

環境研究活動の紹介

環境教育による人材育成

地域への環境貢献

学生主体の活動

国際貢献活動

環境負荷の低減活動

第三者意見

環境報告ガイドライン対照表

編集後記

環境研究活動の紹介



藻場からはじまる豊かな瀬戸内海の創生

創造工学部 末永 慶寛 教授
 創造工学部 高橋 悟 教授、吉田 秀典 教授、岡崎 慎一郎 教授、
 玉置 哲也 准教授、松居 俊典 技術専門員
 香川大学瀬戸内圏研究センター、庵治漁業協同組合



瀬戸内再生のための
 「人×技術×海」
 マッチング共創拠点
 ホームページ

海藻藻類の繁茂する「藻場」は、稚魚の保護・育成場、餌場、産卵場、波浪の低減場等の重要な機能を持っています。また、海草藻類は、海水に溶け込んだCO₂を光合成で吸収・隔離し、食物連鎖や枯死後の海底への堆積などで炭素を貯留します。この一連の生態系を「ブルーカーボン生態系」と呼んでいます。このように「藻場」は、地球温暖化抑制に大きく資するものです。しかし、近年は、様々な要因により「藻場」が減少し、同時に魚介類等の生物資源も減少の一途を辿っています。周辺を海に囲まれた香川県でも例外ではありません。

瀬戸内海でも「藻場」を増やすための技術開発が行われており、香川大学では藻場造成構造物を設計し、海域に沈設後の藻場造成機能を調査しています。この藻場造成構造物は、自然エネルギーである潮の流れを上手く制御して、渦を発生させ、海藻の胞子や魚類の餌となる小型生物の着生を促進する機能を有しており、瀬戸内海のみならず富山湾、東北地方の沿岸海域での藻場造成に貢献しています。

2024年の調査では、春季に構造物が全て海藻に覆われるくらいの、まさに「海の森」とも言える理想的な藻場造成が実現できました。この効果は15年間も

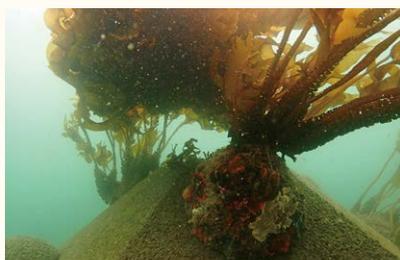


藻場造成構造物(環境調和型)

続いており、全国的にも希な藻場造成の成功例となっています。また、夏季には海藻基部にイカ類の卵嚢が産み付けられており生物の産卵場としての機能も検証できました。

香川大学は、長年にわたる漁業関係者との協働体制と自治体、企業等を含む産学官連携による「藻場から始まる豊かな瀬戸内海の創生」を目指し、藻場造成後のブルーカーボンの評価や防災機能を併せ持つ新たな技術開発にも取り組んでいます。

香川大学の技術で、かつての豊かな瀬戸内海、日本の海、世界の海を復活・創生させたいと願っています。



海藻が着生した構造物の様子



海中林内のメバル



海藻に産み付けられたイカ類の卵嚢

大学概要

環境マネジメントの概要

SDGsアクションプラン

環境研究活動の紹介

環境教育による人材育成

地域への環境貢献

学生主体の活動

国際貢献活動

環境負荷の低減活動

第三者意見

環境報告ガイドライン対照表

編集後記



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



2 飢餓をゼロに



6 安全な水とトイレを世界中に



14 海の豊かさを守ろう



15 陸の豊かさも守ろう

希少糖イノベーションの共創的価値化向上とエコシステム型の知の拠点形成プロジェクト

国際希少糖研究教育機構・機構長 秋光 和也 理事・副学長



香川大学
国際希少糖研究
教育機構
ホームページ

約50種類ある希少糖の一つであるD-アルロースの実用化が開始され、日本のみならず15カ国以上で販売が可能となっています。甘味がありますが、カロリーゼロの天然物で、食後の血糖値上昇抑制や、脂肪燃焼促進作用があり、機能性表示食品として多くの食品に利用され始めています。これらの進捗を受けて、香川・岡山両県議会正副議長意見交換会開催に伴う行政視察の一環で、両議会の議長・副議長様が本学にお越しになり、希少糖研究の成果や希少糖を利用する企業との連携の状況などを視察されました。また、韓国の大邱カトリック大学より、大学教職員4名、学生41名が、大学発の研究材料をもとに、地域との連携で実用化している大学を視察するプログラムで訪日され、地方発のイノベーションが実用化されるまでの過程を研修されました。



希少糖は地方発イノベーションとして海外も注目



様々な分野で用途開発に向けた希少糖研究が進展



生産ステーション

2025年2月には、大阪・関西万博の文部科学省プレイベント「わたしとみらい、つながるサイエンス展～あなたは、未来をつくれる人～」にて、希少糖の研究成果や実用化の状況をブース展示で紹介しました。約900名の来場者があり、希少糖の食品分野での国際的な広がりや、農業・医療・工業分野での可能性等について、多くの皆様にご紹介する機会となりました。また、2月14日(金)には、あべ俊子文部科学大臣が本学ブースを視察されました。

内閣府の地域中核大学イノベーション創出環境強化事業で進めている研究開発や、地域企業を中心とした連携による実用化促進は順調に進み、食品分野のみならず、医療・農業・工業分野での展開も着々と成果が出ています。希少糖の共創的価値化向上と、エコシステム型の知の拠点形成は、多岐に渡る産業分野での実用化に向けて確実に進展しており、これらの成果は、テレビ・マスコミ等でも繰り返し取り上げられました。



大阪・関西万博の文部科学省プレイベント あべ俊子文部科学省大臣視察

大学概要

環境マネジメントの概要

SDGsアクションプラン

環境研究活動の紹介

環境教育による人材育成

地域への環境貢献

学生主体の活動

国際貢献活動

環境負荷の低減活動

第三者意見

環境報告ガイドライン対照表

編集後記



海の恵みと課題が会う場所『潮目』

瀬戸内圏研究センター 中國 正寿 特命助教



潮目とは、海洋表面に形成される収束帯のことで、藻や稚魚が集まる重要な場所です。海洋表面に数キロにわたって明瞭なラインを形成することから、海洋学の初期の頃から注目されてきました。そのような潮目で、近年はプラスチックごみを多く見かける機会が増え、「もしやマイクロプラスチックも相当量あるのでは?」という疑問から潮目のマイクロプラスチック(直径5mm以下)の研究に取り組みました。

高松沖の潮目で一年を通じてマイクロプラスチックの分布調査を実施した結果、驚くべき実態が明らかになりました。潮目域では周辺海域と比較してマイクロプラスチックが40~300倍も高密度に集積し、特に発泡スチロール片が最も多いことが判明しました。これは東京湾のようなホットスポットに匹敵する濃度です。一方で、潮目には豊富な稚魚と海藻も集まっており、「海の恵みと課題が同居する場所」という

実態が浮かび上がりました。今後、このような環境が稚魚に与える影響などの研究が求められます。大量の流れ藻に絡まったごみを一つずつ取り除く作業は想像以上に困難でしたが、海の現状を“五感で体感する”貴重な経験となりました。

今回明らかになった潮目の特性は、生物・藻・ごみが一堂に集まる「海域の縮図」ともいえます。潮目の観測により周辺海域の状況を効率的に把握でき、将来的には「潮目からプラスチックが消えれば、海がきれいになった証」という指標としても活用できる可能性があります。今後はプラスチックへの付着生物の調査や地域特有のプラスチック組成変化の解析を進め、潮目を活用した瀬戸内海環境モニタリング手法を確立したいと考えています。そして、こうした科学的知見を基に、海の豊かさを守る具体的な行動を地域社会へと広げていければと願っています。



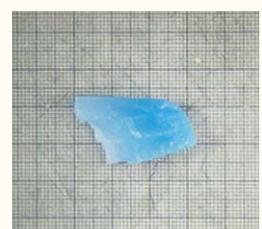
瀬戸内海でみられる潮目の様子



潮目のサンプル



潮目に随伴する稚魚



潮目で採取された
マイクロプラスチックの
一例

- 大学概要
- 環境マネジメントの概要
- SDGsアクションプラン
- 環境研究活動の紹介
- 環境教育による人材育成
- 地域への環境貢献
- 学生主体の活動
- 国際貢献活動
- 環境負荷の低減活動
- 第三者意見
- 環境報告ガイドライン対照表
- 編集後記



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



11 住み続けられるまちづくりを



12 つくる責任 つかう責任



未利用資源「希少糖廃シロップ」のアップサイクル技術 創造工学部 岡崎 慎一郎 教授、吉田 秀典 教授、末永 慶寛 教授

香川県が世界に誇る「希少糖」。その貴重なシロップ製品も、やむを得ず賞味期限を迎えると、価値ある資源でありながら「食品ロス」として廃棄されてしまう課題がありました。私たちは、この社会課題の解決に向け、賞味期限切れのシロップを建設分野で高付加価値化する革新的なアップサイクル*技術を開発しました。

本技術は、廃棄される運命にあった希少糖シロップを、コンクリートの性能を向上させる「混和材」として再生させるものです。シロップをコンクリートに少量添加するだけで、より緻密で高品質なコンクリート建築物や、コンクリート製漁礁の実現に貢献します。

この取り組みは、社会問題である食品ロスの削減に直接貢献することはもちろん、廃棄コストの削減、さらには高価な化学混和剤の使用量を抑えることにも繋がります。食品としての役目を終えたものに、建設材料として新たな命と価値を吹き込む、まさに「アップサイクル」の好例です。

私たちはこの香川発の技術を核に、食品分野と建設分野という異業種を繋ぎ、持続可能な循環型社会の構築を目指してまいります。

*アップサイクル: 本来は捨てられるはずの製品に新たな価値を与えて再生すること



希少糖に高性能減水剤追加



コンクリート試験状況



練り混ぜ後のコンクリート



成形したコンクリート

TOPICS

2024年度防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞しました!

香川大学副学長(危機管理・教員評価・学術・特命担当)、
四国危機管理教育・研究地域連携推進機構長、創造工学部 吉田 秀典 教授

吉田秀典副学長が、「2024年度防災功労者内閣総理大臣表彰」を受賞し、2024年9月13日に内閣総理大臣より表彰されました。

本表彰は、防災に関し、『災害における防災活動について顕著な成績を挙げたまたは功績があったもの』、『防災思想の普及または防災体制の整備について顕著な成績を挙げたまたは功績があったもの』の中から、防災に関し全国民の模範となり、かつ、「防災の日」において内閣総理大臣が顕彰するに足るものに対して表彰されるものです。

吉田秀典副学長は、2017年10月から現在までの8年間、四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構長として地域の防災・減災・危機管理に係る教育、研究、地域連携の発展ならびに啓発に尽力しました。この功績が高く評価され、受賞となりました。



大学概要

環境マネジメントの概要

SDGsアクションプラン

環境研究活動の紹介

環境教育による人材育成

地域への環境貢献

学生主体の活動

国際貢献活動

環境負荷の低減活動

第三者意見

環境報告ガイドライン対照表

編集後記

環境教育による人材育成



大学の環境教育

香川大学では、様々な環境に関連する授業科目を設置し、環境問題に関心を持ち、率先して行動できる人材の育成に力を入れています。

学部・研究科名	授業科目名	学部・研究科名	授業科目名	学部・研究科名	授業科目名	
教育学部	物理学I	創造工学部	環境工学	農学研究科	土壌環境学特論II	
	人間環境学I		都市環境デザイン概論		国際ナショナル オフィス	地域社会におけるSDGs達成 への取り組み
	人間環境学II		環境と都市のリスク	プロジェクトさぬき		
	化学概論II		住環境デザイン演習	プロジェクトさぬき		
経済学部	社会学II	資源・エネルギー論	大学教育 基盤センター	全学共通科目	身の回りの環境問題A	
	環境システム論	水資源と水循環の科学			身の回りの環境問題B	
	商品実験	緑化の理論と技術			瀬戸内海の環境と諸課題	
	資源エネルギー論	水空間生態学			瀬戸内海の環境と保全	
地域マネジメント 研究科	商品システム論	環境基盤科学	農学部		知プラe科目 昆虫と環境	
	Plastics,Circular Economy and the Environment Special Lecture	環境エネルギー変換工学			知プラe科目 人工魚礁の開発と環境保全	
医学部	衛生学	水圏環境学			農学研究科	知プラe科目 四国の自然環境と防災 その1
	公衆衛生学	流域管理学				知プラe科目 四国の自然環境と防災 その2
創造工学部	環境経営	環境科学	農学研究科			歴史学E 環境史:新たな歴史的アプロ ーチへの挑戦
	環境経営	海洋科学				自然科学へのいざない
	衛生学	水産環境学		里海から地域の暮らしを考える		
	公衆衛生学	浅海生産環境学		環境と生活の化学		
	瀬戸内海の環境と諸課題	無機化学	全学共通科目	主題B 「瀬戸内海の環境の諸課題」		
	瀬戸内海の環境と保全	沿岸生産環境学		主題B「瀬戸内海の環境と保全」		
	人工魚礁の開発と環境保全	水環境科学	ライフデザイン「地域社会にお けるSDGs達成の取り組み」			
	四国の自然環境と防災	土壌環境学	里海から地域の暮らしを考える			
	環境政策	フィールド環境実験I				
	住環境学	フィールド環境実験II				
環境生態学	海洋科学特論I					
河川環境マネジメント	海洋科学特論II					
海域環境マネジメント	浅海生産環境学特論					
建設環境マネジメント	環境生態学特論I					
水環境マネジメント実験	環境生態学特論II					
水環境マネジメント演習	土壌環境学特論I					

TOPICS

香川大学が「NIKKEIブルーオーシャン大賞」生物多様性部門賞を受賞 —金融×科学で「海」を「資本」に～ブルーカーボンによる瀬戸内海復権

2024年12月5日、本学が取り組む「金融×科学で『海』を『資本』に～ブルーカーボンによる瀬戸内海復権」が「NIKKEIブルーオーシャン大賞」生物多様性部門 部門賞を受賞し、NIKKEIブルーオーシャン・フォーラムにおいて表彰されました。

本事業は、本学と連携協定を締結している株式会社日本政策投資銀行(以下「DBJ」という。)と、庵治漁業協同組合との間における連携事業であり、大学の地域資源を活かした長年にわたる研究開発、DBJのサステナビリティや事業化に関する知見、庵治漁業協同組合との連携、アートの要素を組み合わせた瀬戸内海地域の復権を目指す象徴的・意欲的な取り組みとして高く評価されました。



表彰式に登壇した末永慶寛教授

大学概要

環境マネジメントの概要

SDGsソリューション

環境研究活動の紹介

環境教育による人材育成

地域への環境貢献

学生主体の活動

国際貢献活動

環境負荷の低減活動

第三者意見

環境報告ガイドライン対照表

編集後記



環境システム論

経済学部 古川 尚幸 教授



東京商工会議所
eco検定
ホームページ

経済学部では、学部専門科目として2年生向けに「環境システム論」を、3年生向けに「資源エネルギー論」を開講しています。今回は2024年度に開講した環境システム論についてご紹介いたします。

私が担当している環境システム論では、地球温暖化やオゾン層破壊など地球規模の環境問題から、廃棄物問題やリサイクルなど私たちの生活に密着した身の回りの環境問題まで、その現状について、授業項目として広く取り上げています。この授業では、これからの予測困難な社会を生き抜くために必要な、企業経営や市民生活と環境問題の関わりについての基礎的な知識を習得することを目的としています。

2030年までに達成すべき17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals :SDGs)」に対する社会的な理解の広がりとともに、環境問題や社会問題に興味・関心を持つ大学生が増加し、毎年250名を超える多くの大学生がこの授業を受講しています。

大教室で行う授業ということもあり、一方的な授業にならないよう、学生たちが環境問題に興味・関心を持つような工夫が必要となります。



環境システム論授業風景

そこで、この授業では、学習の成果を測る目安のひとつとして、東京商工会議所が主催する「環境社会検定(eco検定)®」を活用しています。eco検定を成績評価の一部に加えることで、学習成果の「見える化」や、資格取得に向けた学習に対する動機付けとしています。

この授業を通じて、環境問題の基礎的な知識を習得するだけでなく、循環型社会に向けて、私たちの社会のあり方や、受講生それぞれの生活を考え直すキッカケとなることを期待しています。

廃棄物問題に対する取り組みと考え方

拡大生産者責任 (EPR: Extended Producer Responsibility)

企業が負うべき環境負荷低減の責任を製品のライフサイクル全体に拡大しようとする考え方

▶従来の生産者責任: 設計・生産 消費・使用



▶拡大生産者責任: 設計・生産 消費・使用 使用後



- OECD (経済協力開発機構) が提唱
- 容器包装リサイクル法、家電リサイクル法などに適用

環境システム論 授業スライド



進化する大学の環境教育。授業の一環でeco検定を活用

香川大学経済学部 商品学研究室

古川 尚幸教授

香川大学経済学部 2年生

0900 0900 0900 0900 0900 0900

香川大学 経済学部

1923年創立の官立高松高等商業学校をルーツに持つ、四国の国立大学唯一の経済学部。地域に根差し、実学を重んじる気風は、創立以来現代に至るまで受け継がれ、進取の気性と共生の精神に富んだ経済人を輩出し続けている。2010年から実施している学生提案事業「学生チャレンジプロジェクト」には常時10団体前後の学生主体プロジェクトが参画。地域に飛び出し、市民と一体となって地域の活性化や環境保全に取り組んでいる。

SDGs達成に向けた科学技術イノベーションの推進 (STI for SDGs) が期待される中で、大学の多くがSDGs達成に向けた取り組みを積極的に進めている。学生に対する環境教育も重要度が増し、多くの大学で授業科目となっている。eco検定を授業の一環で活用している香川大学経済学部の古川尚幸教授に導入の背景や検定試験の魅力をお伺いするとともに、実際に受験した2名の学生に受験の動機や受験後の変化について語っていただいた。

東京商工会議所eco検定ホームページ

大学概要

環境マネジメントの概要

SDGsアクションプラン

環境研究活動の紹介

環境教育による人材育成

地域への環境貢献

学生主体の活動

国際貢献活動

環境負荷の低減活動

第三者意見

環境報告ガイドライン参照表

編集後記



教育学部附属学校園の環境教育

幼稚園では子どものころから自然とのふれあいを大切に、命の大切さを教えています。小中学校になると理科、社会科、技術・家庭科、総合的な学習の時間などに身近な環境問題から地球規模での環境問題を学んでいます。

附属学園の環境教育科目【2024年度】			
附属学校名	対象学年	授業科目名	実施内容
附属高松小学校	2年	生活科	・君たちはどう育てるか
	3年	理科	・はる・なつ・あき・ふゆになると
	4年	社会科	・ごみの処理と利用
	5年	社会科	・私たちの生活と環境
		家庭科	・いい服 こちよ衣服
6年	理科	・エコプロ2024 電気と私たちの暮らし	
	家庭科	・エコって ええこと?	
附属幼稚園 高松園舎	4~5歳児	生活や遊びを通して	・身近な生き物や植物との関わりの中で、生命の不思議さや尊さについて考え、大切にしようとする。 ・様々な素材に触れて遊ぶ中で、大切に使うことや、その素材の違いに気づき、捨てる際には分別が必要であることを知る。
附属高松中学校	1年	技術・家庭科	・調理と食文化 ・持続可能な食生活
	2年	技術・家庭科	・持続可能な消費生活 ・持続可能な衣生活 ・健康で快適な室内環境の工夫 ・持続可能な住生活
	3年	技術・家庭科 保健体育	・持続可能な家庭生活 ・健康と環境(飲料水、空気、廃棄物の衛生的管理)
附属幼稚園 (坂出)	3, 4, 5歳児	保育(園外保育)	・園外保育で自然との触れ合いを広げ、深めるほか、公共施設の利用の仕方を知る。また、地域と関わる。
		保育(栽培活動)	・季節の野菜・草花の栽培を通して関心を高めるとともに、親しみをもって世話をし、食育と関連付ける。
		保育(虫の採集・飼育)	・園庭の虫を捕まえて飼育することで、愛情や命について考えていく。
		保育(生き物の飼育 うさぎ・メダカ等)	・生き物の飼育を通して、命や成長する喜びを感じ、いたわったり大切にしようとするようになる。
		保育(自然物を活用した遊び) 保育(樹木匠さんと木育)	・自然の植物等を遊びに生かして楽しむ中で、そのもののよさや特性に気付いていく。 ・木を生き物として捉え、元気がない木のための行動を考え、実行に移し、生命の営みや不思議を体験する。
附属坂出小学校	1年	図画工作科	・廃棄処分前の野菜を使った表現活動
	2年	生活科	・不要品を使ったおもちゃづくり
	3年	総合的な学習の時間	・環境を守るために学校周辺・坂出駅周辺・海のクリーン活動を実施する。
	4年	社会科	・水道管の更新に取り組む人々の働き ・リサイクルの働きと今後の可能性について
		社会科	・持続可能な水産業のためにできること ・公害の歴史とそれに取り組んだ人々の働き
	5年	家庭科	・環境に配慮した消費生活 ・環境に配慮した清掃や整理・整頓
		国語	・食品ロスへの対策を考える
6年	国語	・フェアトレード商品についてのポスターづくり	
	理科	・電気の働き ・人と空気や水との関わり	
	外国語 社会科	・地球環境と食物連鎖 ・地球規模の課題の解決と国際協力	
附属坂出中学校	1年	技術・家庭(家庭分野)	・ファストファッション ・責任ある消費者
		技術・家庭(技術分野)	・木材の有効活用
		保健体育	・心身の機能の発達と心の健康
	2年	技術・家庭(家庭分野)	・プラスチック問題 ・プラントベースフード
		技術・家庭(技術分野) 理科	・日本の発電について考えよう ・持続可能なエネルギーについて ・私の暮らしと化学変化
	3年	技術・家庭(技術分野)	・野菜の栽培
		保健体育	・健康と環境 ・文化としてのスポーツの意義
		理科 美術	・身のまわりの電池 ・校舎について考えよう 建築に込められた思いと設計者の工夫について学ぶ
	1~3年	保健体育	・健康な生活と疾病の予防
		総合的な学習の時間(CAN)	・何の素材を使えば、使ったシャツを新品と同じように打てるようになるのか ・どうすれば無添加の石鹸で汚れを落とすことができるのか ・なぜ坂出の池が緑色に濁ってしまうのか ・どうすれば坂出で発電できるのか ・どうすれば自然の水を安全に飲めるようになるのか ・なぜ100%分解できるバイオマスプラスチックが広まっていないのか ・果物の種や皮を使った化粧水の中で一番保湿されるのはどれだろう ・どうすれば、環境によく、髪がサラサラになるシャンプーをつくれるのか。 ・なぜ二酸化炭素が0.04%未満にならないのか ・どうすれば圧電素子で発電量を増やすことができるのか?
附属特別支援学校	小学部	チャレンジ活動	・給食の牛乳パックを再利用した製品づくり
		生活	・広告でゴミ箱を折って、日々利用する。 ・シュレッダーごみを活用して掃き掃除をする。
		図画工作	・空き箱や容器等の廃材を活用し制作活動をする。
	中学部	職業家庭科	・印刷ミスをした紙でゴミ箱やメモ帳を作って、日々利用する。
		作業学習	・給食の牛乳パックを再利用した製品づくり
	高等部	総合的な学習の時間	・JR讃岐府中駅や通学路の清掃活動
作業学習		・玉ねぎの皮を使って染物・ゴーヤカーテン	
総合的な探求の時間		・河川敷の草刈り、ゴミ拾い ・近隣神社の草抜き、清掃 ・猫除け(ペットボトルの再利用) ・季節探し(旬の食べ物調べ、季節の風景探し)	

大学概要

環境マネジメントの概要

SDGsアクションプラン

環境研究活動の紹介

環境教育による人材育成

地域への環境貢献

学生主体の活動

国際貢献活動

環境負荷の低減活動

第三者意見

環境報告ガイドライン対照表

編集後記



地域のもったいない食材がカレーに!? 地域課題解決! レトルトカレープロジェクト! 香川大学教育学部附属高松小学校 6年緑組



香川大学教育学部
附属高松小学校
ホームページ



カレーの打ち合わせ



瀬戸内海の生き物との
ふれあい



完成したカレー
(JTBの方からもらう)

香川大学教育学部附属高松小学校の5年生が、株式会社JTBや高松東魚市場と連携し、オリジナルレトルトカレーを開発しました。子どもたちは、校外学習で訪れた「うみまち商店街」にある飲食店「クセモノズ」(JTB運営)で、食品ロスの課題を知りました。そこで、流通させることが難しい魚介類、規格外野菜などの地域の「未利用食材」を利用したカレーの開発にチャレンジすることになりました。地域の方と、カレーの味や食材に関する議論を重ねたり、購入した人に香川県の魅力を知ってもらおうと香川県オリジナルキャラシールを作成しました。

完成した「香川本鷹とタイっぴいカレー」「瀬戸内鰻とカレー。ときどきトマト」の販売初日には、子どもたち自らが高松空港で納品、陳列、PR活動も行い、社会とのつながりを実感する貴重な学びとなりました。



ぼくたち・わたしたち 坂出「よくし隊」 香川大学教育学部附属坂出小学校3年団



香川大学教育学部
附属坂出小学校
ホームページ

社会科の学習で「自分たちのまち」について考えた3年生。通学路や海に、ゴミがあったことを思い出して「どのくらいのゴミが坂出のまちに落ちているのか知りたい」となり、探検することになりました。実際に行くと、思っていた以上にゴミがあり「このままでは坂出市がゴミでいっぱいになる」という危機感を抱いた子供たちは、まちの自然や環境を守るために、坂出のまちを「よくしたい」という思いから「よくし隊」を結成しました。

「よくし隊」となり、坂出駅、避難場所にもなる角山や県道のゴミ拾い活動を、その後は、瀬戸内海の海へと活動を広げていきました。ゴミを拾っている時にかけられた温かい言葉から、小さな力が大切なまちや資源を守れそうだとすることに気付いた子供たちは、ますます坂出を「よくしたい」という思いを高めています。



県道ゴミ拾い



角山ゴミ拾い



沙弥島海ゴミ清掃活動

大学概要

環境マネジメント
の概要

SDGsアクション
プラン

環境研究活動
の紹介

環境教育による
人材育成

地域への
環境貢献

学生主体
の活動

国際貢献活動

環境負荷の
低減活動

第三者意見

環境報告ガイド
ライン対照表

編集後記

地域への環境貢献

14 海の豊かさを
守ろう



4 質の高い教育を
みんなに



15 陸の豊かさも
守ろう



17 パートナシップで
目標を達成しよう



11 住み続けられる
まちづくりを





瀬戸内海分校プロジェクト 創造工学部 柴田 悠基 講師

「瀬戸内海分校プロジェクト」は、香川県、東京藝術大学、香川大学の連携によって、瀬戸内の離島を舞台に、アートとサイエンスを融合させた新しい学びと創造の実践を行う教育・研究プロジェクトです。

プロジェクトでは、中高生とともにアーティストがチームを組み、自然、暮らし、歴史、環境課題と向き合いながら、自ら問いを立て、作品や調査・実験・記録といった多様な表現へと展開していきます。環境ドローイングや潮目の観測、船を用いた移動教室、地域の子どもたちとの対話型ワークショップなどを通じて、複数の視点が交錯する共創の場をつくります。

瀬戸内海という風土に根ざしたこのプロジェクトは、環境問題や過疎化など、地域が直面する課題に対して、アートと科学の知を重ね合わせながら、あ

らしい発見と関係性をひらくことを目指しています。成果は展覧会や公開セッションとして島内外へ共有され、同時に地域にとっての知の蓄積としてアーカイブされていきます。

2024年度には文部科学省及び日本学術振興会（JSPS）が実施する「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」に採択されたことで芸術未来研究場せとうちが整備され、瀬戸内分校プロジェクト第3回『ひととうみ展』が本施設で行われました。海は人を愛するをテーマとして、2024年10月5日～11月10日の会期で実施されました。

今後も中高生、若手アーティストの人材育成に取り組みながら、香川県が抱える海洋や離島、過疎地域の課題解決をともに考えていきます。



海辺でのアート演習



大漁旗のり染め見学



海洋調査



展覧会風景



作品制作風景

大学概要

環境マネジメントの概要

SDGソリューションプラン

環境研究活動の紹介

環境教育による人材育成

地域への環境貢献

学生主体の活動

国際貢献活動

環境負荷の低減活動

第三者意見

環境報告ガイドライン対照表

編集後記



11 住み続けられるまちづくりを



能登半島地震被災地支援活動

創造工学部 井面 仁志 教授、野々村 敦子 教授
危機管理先端教育研究センター 高橋 真里 技術補佐員



関連ホームページ

本学は学部での学位プログラムに加え、学部の枠を超えて、主体的に学習する自由参加型の特別教育プログラムとしてネクストプログラムを開設しています。その1つである防災士養成プログラムは防災士の資格を持ち、職場や地域で率先して防災活動を行うことができる知識と技術を持つ人材を育成することを目指しており、プログラムを受講している学生17名と教職員4名で2024年9月5日(木)から6日(金)の二日間、石川県珠洲市において被災地支援ボランティア活動を実施しました。両日とも珠洲市災害ボランティアセンターを拠点として、被災家屋内の家財道具等の分別や不要家財等の搬出作業等を行いました。倒壊家屋の撤去、道路の復旧等が遅々として進まない中で、被災された方々と一緒に作業に当たりました。「収穫したお米を保管できるように倉庫の瓦礫を撤去して欲しい」というニーズを受けた瓦礫撤去作業もありました。作業にあたった学生からは「倉庫が片付いていくにつれて被災された方の表情が明るくなっていくのを感じた」「慣れない作業は大変だったけど、やりがいを感じた」との声が聞かれました。

今回は、全員一緒に宿泊できる施設がなくテント泊をすることとなりました。被災地の現状を鑑みると、そうせざるを得ない状況であると判断しましたが、これに懲りてしまう学生が出るのではないかと懸



珠洲市災害ボランティアセンターにて

念しました。しかし学生からは、「香川大学防災サポートチームとして、これからもボランティア活動に参加したいです」「今後の支援を継続していきたい」との意見が多数寄せられました。みんなの思いが一つになった支援活動だったことを知り、安堵したとともに、頼もしさも感じました。



廃棄する家財の搬出



出発前のオリエンテーション



家財(災害廃棄物)を積み込む



農機具(災害廃棄物)の搬出

大学概要

環境マネジメントの概要

SDGsアクションプラン

環境研究活動の紹介

環境教育による人材育成

地域への環境貢献

学生主体の活動

国際貢献活動

環境負荷の低減活動

第三者意見

環境報告ガイドライン対照表

編集後記

11 住み続けられるまちづくりを

17 パートナシップで目標を達成しよう

まんのう町魅力発信プロジェクト 地域人材共創センター 梅津 彩音 特命助教



町の共同研究
ホームページ

本学では、地域の課題解決を目指した実践活動として卒業時に地域に愛着を持ち、自信をもって社会で活躍する人材の育成を目指しています。このひとつに全学共通科目「瀬戸内地域活性化プロジェクト」があり、学生が県内の複数地域で活動しています。2024年度「まんのう班」ではまんのう町内の中学生・町職員と共に活動を行い、町の豊かな自然や観光名

所、特産のひまわり商品に着目したPR動画を4本制作しました。

中学生は自分より上の年代となる大学生や大人と活動を行うため、委縮せず、地元の中学生だからこそ感じる率直な意見を話せる空気を皆で作りました。このようにして中学生・本学生・町職員の3者の視点から町の魅力を互いに教え合い、対等に意見を述べられる空気の中で動画が作られました。

今後も地域の良さを理解し発信できる人材を育てていきたいと思えます。



集合写真



動画内写真



ワークショップ

4 質の高い教育をみんなに

10 人や国の不平等をなくそう

インクルーシブ教育システムの実現に向けた 特別支援学校の取組 香川大学教育学部附属特別支援学校



香川大学教育学部
附属特別支援学校
ホームページ

現在、日本では共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム(障害のあるなしにかかわらず共に学ぶ仕組み)構築のために、特別支援教育を推進しています。そのような中で、特別支援学校としての専門性を生かし、何ができるかを考えた取組を実

践します。一つ目は、附属坂出学園や地域の小・中学校との交流及び共同学習や大学との交流を通して、周囲の障害理解を進めていきます。二つ目は、地域の学校に対して、特別支援教育の視点を踏まえた授業に関するコンサルテーションを行うことで、誰一人取り残さない教育の実現を広げていきます。



小学部と附属坂出小学校との交流



中学部と附属坂出中学校との交流



高等部の大学での作業販売

大学概要

環境マネジメントの概要

SDGソリューション

環境研究活動の紹介

環境教育による人材育成

地域への環境貢献

学生主体の活動

国際貢献活動

環境負荷の低減活動

第三者意見

環境報告ガイドライン対照表

編集後記



学生主体の活動

12 つくる責任
つかう責任14 海の豊かさを
守ろう

SechU～瀬戸内から地球とあなたに優しく～ 学生団体ManyWillsea 創造工学部 志多 航太郎 さん

ManyWillsea
ホームページ

アップサイクルアクセサリ

私たちMany Will seaは、「瀬戸内からもっと自由に楽しく」というビジョンのもと、誰もが環境配慮を持って幸せに暮らす社会を目指し活動しています。2024年度は海岸清掃で回収した海洋プラスチックごみを資源として再活用することで、ゴミ削減や環境保全への意識を高めることを目指して、アップサイクルアクセサリの製作を行い販売しました。

チームの中には創造工学部造形メディアデザイン

コースのメンバーが多く在籍しており、デザインにこだわりながら、海洋プラスチック問題を身近に感じてもらえる作品づくりに取り組みました。洗浄や加工には手間がかかりましたが、販売を通じ多くの方に興味を持っていただけたことが励みになりました。今後は環境教育やワークショップも行い、より多くの人と環境問題を考える機会を広げていきたいと考えています。

コースのメンバーが多く在籍しており、デザインにこだわりながら、海洋プラスチック問題を身近に感じてもらえる作品づくりに取り組みました。洗浄や加工には手間がかかりましたが、販売を通じ多くの方に興味を持っていただけたことが励みになりました。今後は環境教育やワークショップも行い、より多くの人と環境問題を考える機会を広げていきたいと考えています。



海岸清掃で拾ったプラスチックゴミ



海岸清掃の様子

12 つくる責任
つかう責任

香川大学衣料品交換会

香川大学学生ESDプロジェクトSteeep 経済学部 姫野 優作 さん

香川大学学生
ESDプロジェクト
Steeep
Instagram

現在、衣料品廃棄物は社会問題のひとつになっています。私たちが行った衣料品交換会では香川大学の図書館や食



交換会を運営するSteeepメンバー

堂前広場の一部をお借りし、持って来ていただいた衣料品と1着交換するという活動を行いました。この活動を通して、香川大学生の衣料品ロスに対する意識向上を図ることができたと感じています。家で眠っていた服や捨てる予定であった服を持って来ていただくことにより、衣料品ロスを減らすだけでなくサステナブル

ファッションについても周知することができました。

本活動では交換会の元となる衣料品を集めることに苦労しました。百着以上は必要になる為、古着関係の企業へ支援を求め、ほかのプロジェクトへ集めてもらえるように声かけを行いました。

今後は衣替えの季節を目途に年4回ほど開催し、持続可能なファッションを目指していきたいです。



交換会に参加した学生



交換会の実際の衣料品

大学概要

環境マネジメント
の概要SDGsアクション
プラン環境研究活動
の紹介環境教育による
人材育成地域への
環境貢献

学生主体の活動

国際貢献活動

環境負荷の
低減活動

第三者意見

環境報告ガイド
ライン対照表

編集後記



学生の力で国際支援に取り組む

香川国際協力NGO U-dawn 医学部 地藤 湧騎 さん



香川国際協力NGO
U-dawn
ホームページ

私たちU-dawnは、「今日の笑顔を守り、明日の可能性を広げる」というVisionのもと、学生が主体となってカンボジアにおける医療分野、教育分野での支援活動を行っています。

2021年から活動を開始し、2024年には学生3名が2週間ほど現地へ渡航しました。医療分野ではモングール・ボレイ・リフェラル病院で新生児蘇生法講習会を開催し、教育分野では2023年にトイレを建設したロピア小学校に訪問して衛生教育を実施しました。

年に限られた回数しか渡航には行けませんが、日本での密度の高いミーティングとオンラインでの現地との連携で準備を重ね、渡航で最大の成果を創出できるよう尽力しています。

今後もカンボジアの人たちが笑顔となり、未来の可能性を広げるためにメンバー全員で頑張っていきます。



医療分野支援



訪問した小学校の児童たちと



現地中高中生への蘇生法訓練の様子



香川の水族の移動展示

うお Try!魚っち 農学部 田岡 小乃羽 さん



香川淡水魚研究会
ホームページ



協力してくれた地元の高校生とメンバーの集合写真



絶滅危惧種であるカワバタモロコ



展示を見る来場者

「Try!魚っち」は、香川県の自然や生き物をテーマに、県内の水族*1に特化した移動展示を行っています。2024年度は、高松桜井高校の文化祭や高松丸亀町商店街ドーム広場で、香川で数を減らしている陸域の水族*2を紹介し、それらを取り巻く環境の変化についても啓発を行いました。来場者からは、「魚に興味があった」「珍しい生き物を生で見られて嬉しい」といった声が寄せられ、生物多様性への関心を高める機会となりました。一方で、「魚を見ただけで河川政策に関心は持てない」との指摘もありました。今後も、こうした意見を踏まえながら、人間の暮らしと自然が調和する社会のあり方や、持続可能な共生について考えるきっかけを、子どもから大人まで幅広い世代に届けていきたいと考えています。

*1 水族：水中に生息する動物の総称。

*2 陸域の水族：淡水域や陸上環境に生息する水生生物の総称。

大学概要

環境マネジメントの概要

SDGソリューション

環境研究活動の紹介

環境教育による人材育成

地域への環境貢献

学生主体の活動

国際貢献活動

環境負荷の低減活動

第三者意見

環境報告ガイドライン対照表

編集後記



国際貢献活動



メキシコの先住民による 「地域密着型エコツーリズム」の仕組みづくり

創造工学部 平見 尚隆 教授



平見尚隆教授の
ホームページ

2022年度からJSPS科研費助成を受け「ラテンアメリカ地域におけるエコツーリズムの発生・定着に関する研究」を行ってきました。その間、メキシコ南部のオアハカ州とプエブラ州にある先住民の村々で調査を行い、印象深かった自然と伝統文化を活かした「地域密着型エコツーリズム(CBET)*」の事例を紹介します。観光によって村おこしを図るこの活動は、単なるお金儲けではなく、地域の誇りや暮らしを守ることを目的としています。

活動の中で特に強く共感したことは、村の人たちの「自分たちの自然や文化は自分たちで守る」という強い想いです。この気持ちが、観光客を迎え入れるための協同組合づくりや、宿泊・ガイドなどの仕事への積極的な参加につながっていました。また、観光業だけに頼らず、伝統的な農業や手工芸なども両立させる工夫がされていました。

活動を進める中では、村のインフラ整備や資金不足などの課題もありましたが、そうした初期の段階で

は国や自治体からの支援を上手に取り入れている例も見られました。「支援を受けても、自分たちで決める」という姿勢が特に印象に残りました。

今後は、このような地域主導の観光の成功要因を整理し、他の地域にも応用できるように広めていきます。この研究は、地域資源をベースに観光をきっかけとし、地域が元気を取り戻し、伝統と現代のバランスをとりながら未来へつなぐ仕組みづくりに貢献するものであり、過疎や人口減少が続く地域へ光を当てていきたいと考えています。

*地域密着型エコツーリズム(CBET): Community-Based Ecotourismの略。地域住民が主体となって観光資源を管理・活用し、外部からの観光客との交流を通じて地域経済や環境保全を図る持続可能な観光の形。



オアハカの先住民メンバー(エル・アレマセンにて)



オアハカのコミュニティ(ラトゥビにて)



オアハカ先住民の民家(アポアラにて)

大学概要

環境マネジメント
の概要

SDGサステイナブル
プラン

環境研究活動
の紹介

環境教育による
人材育成

地域への
環境貢献

学生主体
の活動

国際貢献活動

環境負荷の
低減活動

第三者意見

環境報告ガイド
ライン対照表

編集後記

環境負荷の低減活動



エネルギー使用量削減目標と実績

●削減目標

香川大学では、「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」(省エネ法)及び「地球温暖化対策の推進に関する法律」(温対法)に基づき、「香川大学省エネルギー対策に関する規程」(以下、「規程」)及び「エネルギー管理に関する基本計画」(以下、「基本計画」)を策定し、省エネルギー対策の推進を図っています。

「規程」では、学内のエネルギー管理体制及び担当者の責務などを定めています。

「基本計画」では、2024年度から2028年度までの5年間に、エネルギー使用量及び温室効果ガス排出量を、2022年度を基準とした原単位(建物延べ床面積あたりのエネルギー使用量及び温室効果ガス排出量)で5%削減することを努力目標とし、取組を進めています。



省エネポスター(夏)



省エネポスター(冬)

●実績

香川大学におけるエネルギー使用量及び温室効果ガス排出量に係る環境効率下表のとおりです。建物延べ床面積あたりの総エネルギー使用量と温室効果ガス排出量を求めました。

総エネルギー使用量(原単位)及び温室効果ガス排出量(原単位)は、基準年度(2022年度)と比較すると減少しており、前年度と比較すると増加となりました。増加理由は、前年度の平均気温と比べると、夏季(7月~10月)は高く、冬季(12月~2月)は低いことにより、空調等の使用量が増加したためであると考えられます。

	単位	2022年度 (基準年度)	2023年度	2024年度			
		実績	実績	実績	基準年度比(%)	前年度比(%)	
総エネルギー使用量	GJ	334,633	327,979	332,426	△ 0.7	1.4	
温室効果ガス排出量	t-CO ₂	21,173	15,203	19,384	△ 8.4	27.5	
建物延べ床面積	m ²	291,988	290,584	290,968	△ 0.3	0.1	
環境効率 (原単位)	建物延べ床面積あたりの 総エネルギー使用量	GJ/m ²	1.15	1.13	1.14	△ 0.9	0.9
	建物延べ床面積あたりの 温室効果ガス排出量	t-CO ₂ /m ²	0.073	0.052	0.067	△ 8.2	28.8

大学概要

環境マネジメントの概要

SDGsアクションプラン

環境研究活動の紹介

環境教育における人材育成

地域への環境貢献

学生主体の活動

国際貢献活動

環境負荷の低減活動

第三者意見

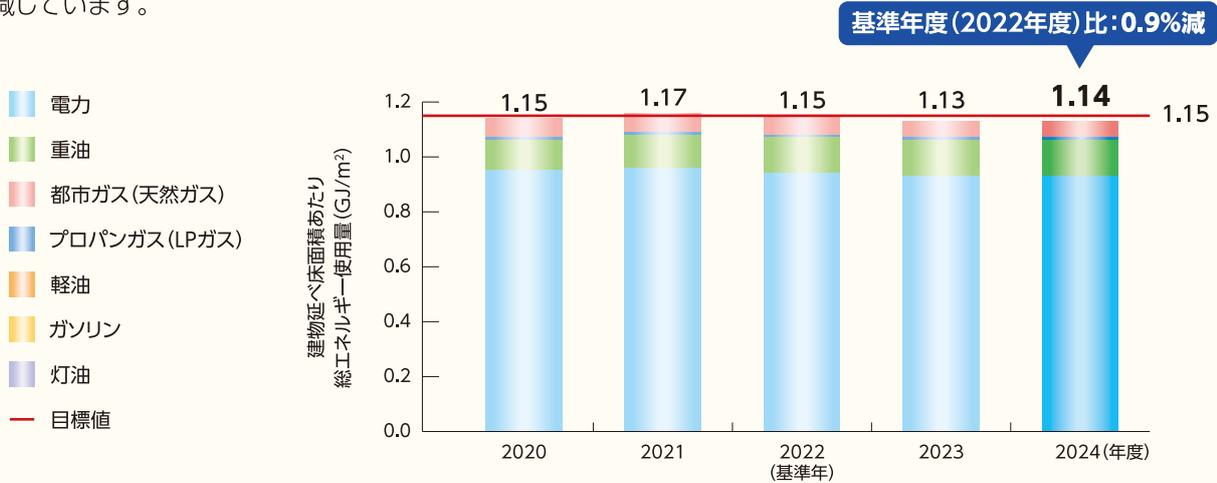
環境報告ガイドライン対照表

編集後記

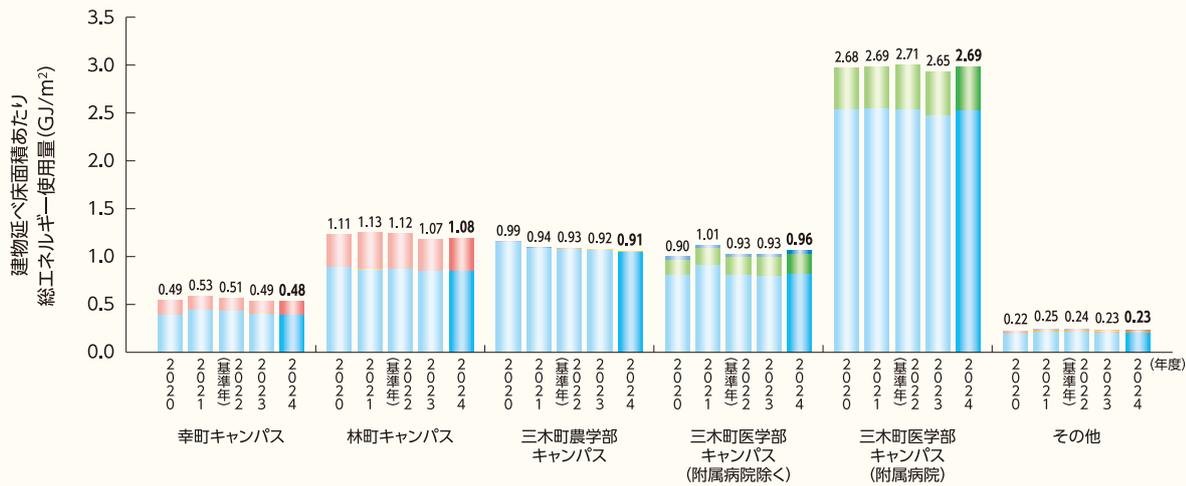


〈建物延べ床面積あたり総エネルギー使用量〉

「基本計画」に基づき、2024年度から2028年度の5年間で基準年度(2022年度)から建物延べ床面積あたりのエネルギー使用量を5%削減することを努力目標としています。計画初年度である2024年度は、基準年度より0.9%削減しています。

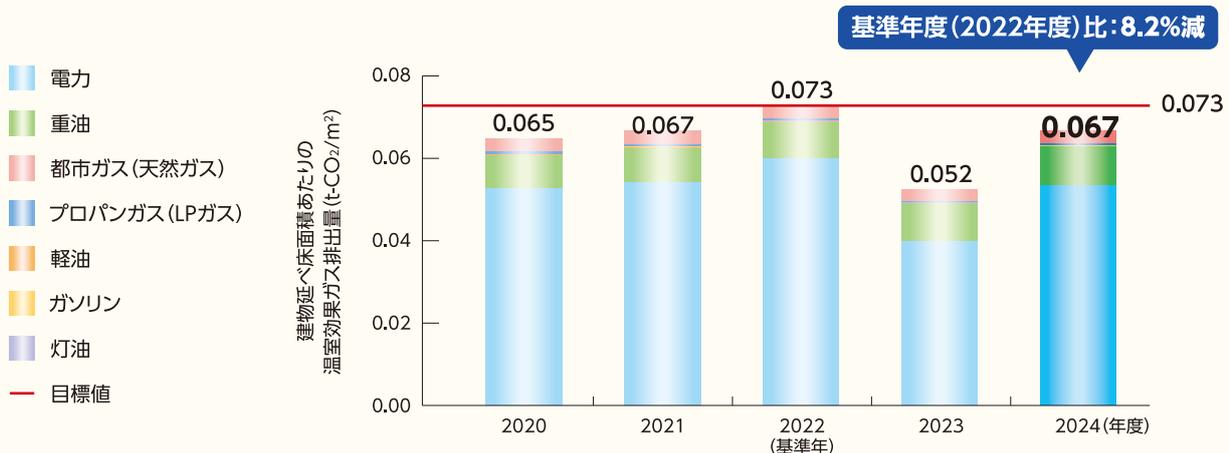


〈キャンパスごとの建物延べ床面積あたりの総エネルギー使用量〉



〈建物延べ床面積あたりの温室効果ガス排出量〉

「基本計画」に基づき、2024年度から2028年度の5年間で基準年度(2022年度)から建物延べ床面積あたりの温室効果ガス排出量を5%削減することを努力目標としています。計画初年度である2024年度は、基準年度より8.2%削減しています。



- 大学概要
- 環境マネジメントの概要
- SDGスアウォンプラン
- 環境研究活動の紹介
- 環境教育による人材育成
- 地域への環境貢献
- 学生主体の活動
- 国際貢献活動

環境負荷の低減活動

- 第三者意見
- 環境報告ガイドライン対照表
- 編集後記

マテリアルバランス

2024年度(令和6年度)のエネルギー使用量、温室効果ガス排出量など、香川大学の教育、研究活動に伴う環境負荷の状況は下表のとおりです。各使用量及び排出量は基準年度(2022年)と比較すると、重油、軽油、ガソリン、灯油、廃棄物排出量及び総排水量は増加しております。

前年度と比較すると、紙使用量以外は増加しております。

今後も、継続的な省エネ活動等により、エネルギー使用量・温室効果ガス排出量等の削減に取り組んで参ります。

		単位	2022年度 (基準年)	2023年度	2024年度			
			実績	実績	実績	基準年比	前年度比	
INPUT	エネルギー使用量	電力使用量	千kWh	31,881	31,152	31,419	-1.4%	0.9%
		重油使用量	kL	957	968	986	3.0%	1.9%
		ガス使用量	千m ³	459	424	451	-1.7%	6.4%
		軽油使用量	kL	18.0	16.6	21.1	17.2%	27.1%
		ガソリン使用量	kL	12.0	12.9	14.6	21.7%	13.2%
		灯油使用量	kL	10.0	7.7	10.2	1.9%	32.4%
	紙使用量	t	100	92	82	-18.0%	-10.9%	
	水使用量	千m ³	125	122	125	0.0%	2.5%	
OUTPUT	温室効果ガス排出量	t-CO ₂	21,173	15,203	19,384	-8.4%	27.5%	
	廃棄物排出量	t	1,552	1,542	1,571	1.2%	1.9%	
	総排水量	千m ³	103	111	115	11.7%	3.6%	

●温室効果ガス排出量





●エネルギー使用量

〈電力使用量〉



【主な低減対策】

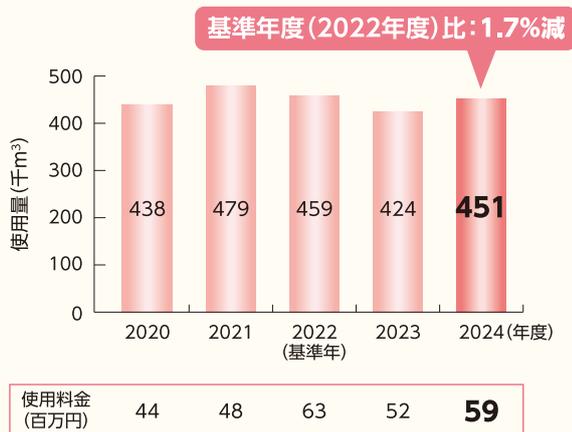
- 適切な空調温度設定の実施(冷房28℃、暖房19℃)
- 照明及びPCモニタのこまめな電源オフの実行
- 省エネ型設備(空調機、LED照明など)への更新
- 昼休みの消灯 ●省エネ巡視の実施
- クールビズ・ウォームビズの励行
- 空調使用時のサーキュレーター等の活用
- 廊下の照明の間引き

【主な増加理由】

- 夏季(7月~10月)の平均気温の上昇、及び冬季(12月~2月)の平均気温の低下による空調機等の使用増加



〈ガス使用量〉

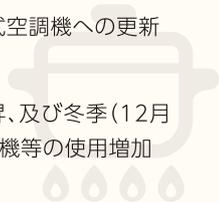


【主な低減対策】

- 適切な空調温度設定の実施(冷房28℃、暖房19℃)
- 中間期のエアコン停止
- ガスヒートポンプ式空調機運転の集中コントローラーによる間欠運動の実施
- ガスヒートポンプ式空調機から電気式空調機への更新

【主な増加理由】

- 夏季(7月~10月)の平均気温の上昇、及び冬季(12月~2月)の平均気温の低下による空調機等の使用増加



〈重油使用量〉

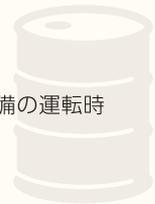


【主な低減対策】

- ボイラーの運転時期の制限
- 蒸気ヘッダー、バルブに保温材の設置(医学部)
- 蒸気の還水の再利用(医学部)
- ボイラーの運転台数制御(医学部)
- ボイラーの排熱再利用(医学部)

【主な増加理由】

- 使用電力ピークカットによる、自家発電機設備の運転時間の増加(医学部)



〈軽油使用量〉



【主な低減対策】

- アイドリングストップ

【主な増加理由】

- 瀬戸内海での研究促進による船舶の使用増加



大学概要

環境マネジメントの概要

SDGsアクションプラン

環境研究活動の紹介

環境教育による人材育成

地域への環境貢献

学生主体の活動

国際貢献活動

環境負荷の低減活動

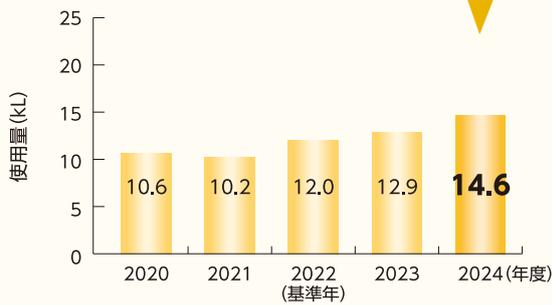
第三者意見

環境報告ガイドライン対照表

編集後記

〈ガソリン使用量〉

基準年度(2022年度)比: 21.7%増



使用料金 (百万円)	2020	2021	2022	2023	2024
	1.3	1.5	2.0	2.2	2.5

【主な低減対策】

- ハイブリッド車、低燃費車の導入
- アイドリングストップ

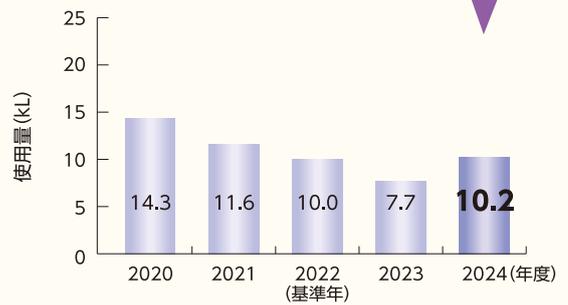
【主な増加理由】

- 新型コロナウイルス感染症の沈静化による車の使用増加と考えられる



〈灯油使用量〉

基準年度(2022年度)比: 1.9%増



使用料金 (百万円)	2020	2021	2022	2023	2024
	0.9	1.2	1.1	0.9	1.3

【主な低減対策】

- 適切な空調温度設定の実施
- 行事以外での石油ストーブの使用を制限

【主な増加理由】

- 冬季(12月~2月)の平均気温の低下による石油暖房機の使用増加



TOPICS

第24回山崎貞一賞を受賞!

微細構造デバイス統合研究センター長、創造工学部機械システム工学領域 高尾 英邦 教授

高尾英邦教授が「指先の触覚を超越可能な半導体ナノ触覚センサと各種センシングシステムの創製」の業績により、一般財団法人材料科学技術振興財団 第24回山崎貞一賞の受賞者に選ばれました。

山崎貞一賞は、科学技術水準の向上とその普及啓発に寄与することを目的として2001年に創設された賞で、論文の発表、特許の取得、方法・技術の開発等を通じて、実用化につながる優れた創造的業績をあげている人を対象として4分野での授賞を行っています。

高尾英邦教授は、触覚でもっとも繊細な感覚をもつ指先の「手触り感」を人間と同等以上の感度と分解能でセンシングするセンサの開発を目指し、半導体MEMS集積化技術を用いて、手触り感の5因子である粗滑感・摩擦感・硬軟感・冷温感・乾湿感を同時に検出する半導体ナノ触覚センサの開発に世界で初めて成功しました。



大学概要

環境マネジメントの概要

SDGsアクションプラン

環境研究活動の紹介

環境教育における人材育成

地域への環境貢献

学生主体の活動

国際貢献活動

環境負荷の低減活動

第三者意見

環境報告ガイドライン対照表

編集後記



●省資源の推進

香川大学では省資源を推進し、紙、水使用量を削減することを目標とし、各種対策に取り組んでいます。

〈紙の使用量〉



【主な低減対策】

- スキャナでのPDF(電子データ)化
- 両面・縮小印刷の実施
- 裏紙の利用
- 会議のペーパーレス化

〈水の使用量〉



【主な低減対策】

- 節水シールの貼付
- 節水型設備の更新
- 止水栓の調整
- 循環水の利用
- 節水コマ、擬音装置の設置

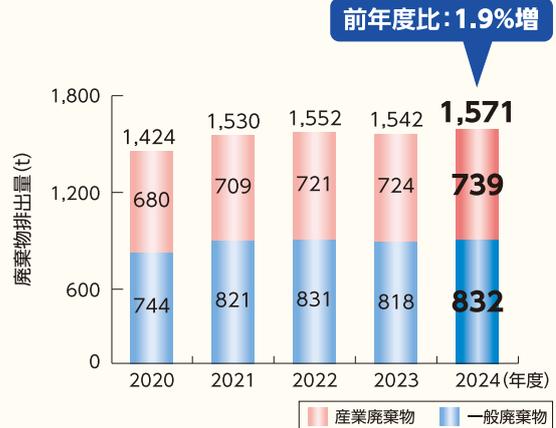
【主な増加理由】

- 新型コロナウイルス感染症の鎮静化による学内イベントの実施増加等が考えられる

●廃棄物の適正管理

香川大学から排出される廃棄物は、一般廃棄物(可燃ごみ、びん、ペットボトルなど)と産業廃棄物(汚泥、廃アルカリ・廃酸、特別管理産業廃棄物など)に分類され、適正に管理し、処理・リサイクルを行っています。

2024年度(令和6年度)は、廃棄物排出量は1,571tで、前年度より1.9%増加しました。これは、医学部再開発により処分量が増加したことなどによるものと考えられます。



TOPICS

2024年度農学部クリーンキャンパスを実施



構内美化に対する意識の高揚並びに学生と教職員相互の連帯感強化を目的として、7月17日、11月3日に農学部クリーンキャンパスを実施しました。

両日合わせて、160名を超える学生・教職員にご参加いただきました。落ち葉や缶ビン等のごみを拾い、日ごろお世話になっている自分たちのキャンパスのために汗を流し清掃にあたりました。



- 大学概要
- 環境マネジメントの概要
- SDG&アクションプラン
- 環境研究活動の紹介
- 環境教育による人材育成
- 地域への環境貢献
- 学生主体の活動
- 国際貢献活動

環境負荷の低減活動

- 第三者意見
- 環境報告ガイドライン対照表
- 編集後記

循環水利用の取り組み

学内では循環水利用の取り組みを進めています。主な取り組み内容は、下表のとおりです。循環水として、2024年度(令和6年度)に再利用された水の量は、34,300m³でした。

対象地区	取り組み内容
三木町医学部キャンパス	生活排水処理水をトイレ洗浄水、消火用水に再利用
林町キャンパス	生活排水を雨水とともに浄化処理後、トイレ洗浄水、植物散水及び測定器の冷却水に再利用
農学部附属農場	家畜糞尿処理水を果樹園等の灌漑用水に再利用



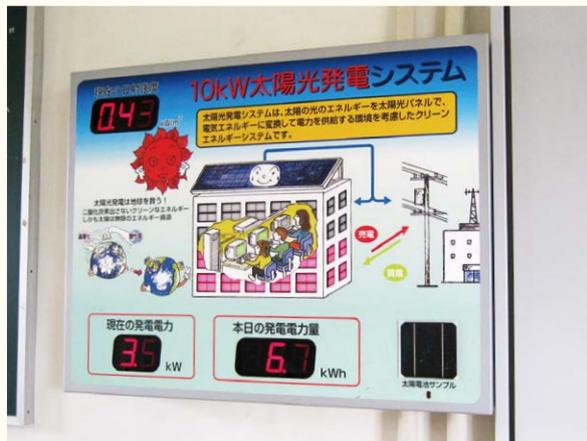
節水シール

新エネルギー導入による環境負荷低減

香川大学では、幸町キャンパス、林町キャンパス、及び附属学校園において、太陽光発電を導入しています。各施設の発電設備容量は右表のとおりです。

〈太陽光発電設備ごとの発電設備容量〉

設備設置箇所	発電設備容量(kW)
幸町北1号館	20
幸町北8号館	20
研究交流棟	20
大学会館	50
林町キャンパス	40
附属高松小学校	10
附属高松中学校	10
附属坂出小学校	10
附属学校園	10
附属幼稚園(高松)	5
附属幼稚園(坂出)	5
附属特別支援学校	10
附属研究施設	5
合計	215



太陽光発電システムパネルの表示(附属坂出中学校)

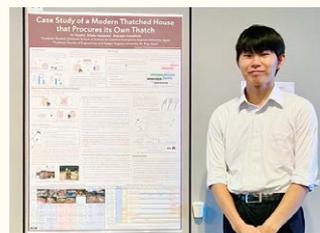
TOPICS

アジアの建築交流国際シンポジウムで、ISAIA Academic Poster Session Awardを受賞しました!

大学院創発科学研究科 博士前期課程1年(受賞時)釜床研究室 小坂 伊織 さん

ISAIAは、日本建築学会、大韓建築学会、中国建築学会の3カ国の建築学会が共催する国際シンポジウムで、今年は日本(京都)で3日間開催されました。各国の研究者の中に混じって学生が受賞したというのは素晴らしい事です。

小坂伊織さんは日本の伝統的な建築生産でおこなわれてきた、里山として草原を「利用」することにより「保全」するシステムを再考するため、現在も小規模な草場で草を刈り、建築に用いる事例を日本各地でのフィールドワークで独自に収集し、現代社会で草を屋根材に用いる生産システムの再構築を目指す上で重要な成果を挙げました。



発表の様子

大学概要

環境マネジメントの概要

SDGsアクションプラン

環境研究活動の紹介

環境教育における人材育成

地域への環境貢献

学生主体の活動

国際貢献活動

環境負荷の低減活動

第三者意見

環境報告ガイドライン対照表

編集後記



排水の水質に係る管理状況

香川大学では、各キャンパスにおいて定期的に排水を分析し、水質管理を徹底しています。
2024年度(令和6年度)の水質検査において異常はありませんでした。

()内は基準値を示す。

測定箇所	排出濃度			総排出量		
	pH	BOD(mg/L)	SS(mg/L)	COD(kg)	窒素(kg)	リン(kg)
幸町キャンパス	8.5 (5をこえ9未満)	580.0 (600未満)	270.0 (600未満)	—	—	—
三木町医学部キャンパス	6.2 (5.8以上~8.6以下)	1.1 (5以下)	2.0 (5以下)	2.38 (55.5未満)	1.47 (77.3未満)	0.2 (8未満)
林町キャンパス	7.7 (5をこえ9未満)	15.0 (600未満)	6 (600未満)	—	—	—
三木町農学部キャンパス	8.6 (5をこえ9未満)	290.0 (600未満)	360.0 (600未満)	—	—	—

※BOD:生物化学的酸素要求量 SS:浮遊物質量 COD:化学的酸素要求量



大気汚染物質に係る管理状況

香川大学では、三木町医学部キャンパスのボイラー、冷温水発生機、自家発電機から発生する大気汚染物質である硫黄酸化物(SOx)と窒素酸化物(NOx)の削減に取り組んでいます。

SOxの低減策としては、低硫黄重油の利用や重油を使用している空調設備から電気式空調設備への転換を進めています。また、NOxの低減策としては、専門業者によって中央機械室の空気比の調整を行っています。

大気汚染防止法施行規則で測定が定められているNOxの排出量について、2024年度(令和6年度)もすべて基準値を下回りました。引き続き、SOx、NOxの低減に努めていきます。



フロン類の適正管理

2020年(令和2年)4月改正「フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律」が施行され、フロン類漏えい防止のための点検、漏えいが確認された場合の修理、漏えい量が一定以上の場合の報告義務などが定められています。

香川大学では、同法に基づいて保有する業務用空調機などの点検や漏えい量の把握、記録の作成などを行っています。2024年度(令和6年度)は、報告の必要がある1,000t-CO₂/年以上の漏えいはありませんでした。



グリーン購入・グリーン契約

香川大学では、毎年度「環境物品等の調達を円滑にするための方針」を策定・公表しています。この方針に基づき、紙類、文房具、オフィス家具など多数の物品、その他印刷、輸配送、清掃などを特定調達品目として目標を設定し、できる限り環境への負荷が少ない物品などの調達に努めています。物品などを納入する事業者、役務の提供事業者、公共工事の請負事業者などに対しても本調達方針を周知し、グリーン購入を推進するよう働きかけるとともに、物品の納入の際には簡易な包装にすることや環境に配慮した自動車を利用するなどを働きかけています。

大学概要

環境マネジメントの概要

SDGsアクションプラン

環境研究活動の紹介

環境教育による人材育成

地域への環境貢献

学生主体の活動

国際貢献活動

環境負荷の低減活動

第三者意見

環境報告ガイドライン対照表

編集後記



化学物質等の適正管理

香川大学では、多様な研究活動のため、様々な化学物質を使用しています。人や環境に影響を与える有害な化学物質については適正な管理を行っています。

●化学物質の管理

労働安全衛生規則等の一部改正に伴い、「国立大学法人香川大学化学物質管理規程」を整備しています。本規程により、危険有害性を有する化学物質について、リスクアセスメントの結果に基づき、ばく露防止のための措置を適切に実施して参ります。

●PRTR制度対象化学物質の管理

PRTR制度対象化学物質は、購入・使用状況を管理記録簿に記入するなど管理の徹底を行っています。
〈PRTR制度対象化学物質〉第一種指定化学物質：アセトニトリル、ジクロロメタン、ヘキサン、トルエン など

●毒物・劇物の管理

香川大学における毒物、劇物及び特定の毒物の管理方法については、学内HPの「研究費使用ハンドブック」に掲載しています。「毒物及び劇物取締法」及び「国立大学法人香川大学毒物及び劇物管理規程」に基づき、施錠できる専用保管庫で保管し、使用記録簿の作成・管理・適正な処理を行っています。

また、廃液、空き容器などの処分については、「国立大学法人香川大学特殊排水処理規程」及び「香川大学医学部廃棄物処理規程」により適正に行っています。

毒劇物の管理に関し、教職員、学生などに対して必要な教育訓練を行い、管理状況を定期的に点検、監査しています。

●放射性物質の管理

放射性物質については、「放射性同位元素等の規制に関する法律」、「香川大学放射線障害の防止に関する管理規程」、「香川大学研究基盤センター放射性同位元素実験施設(医学部地区)放射線障害予防規程」、「香川大学研究基盤センター放射性同位元素実験施設(農学部地区)放射線障害予防規程」及び「香川大学医学部附属病院放射線障害予防規程」に基づき、適正な管理を行っています。また、放射性同位元素実験施設からの排水については排水の都度、排水中の放射能濃度が法令で定められている基準以下であるか監視測定を行っています。

●遺伝子組換え実験の管理

遺伝子組換え実験については、「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律」、「香川大学遺伝子組換え実験安全管理規則」及び「香川大学遺伝子組換え生物等に該当しないゲノム編集生物の使用等に関する取扱要項」に基づき、実験計画を審査し、適正な管理を行っています。



環境に関する法規制の遵守

香川大学では、環境に関する法規制を遵守しています。2024年度(令和6年度)についても、環境関連法規制を遵守し、適切に管理しました。

【総合環境政策】

グリーン購入法 環境配慮促進法

【地球温暖化抑制・省エネルギー対策】

省エネ法 温対法 フロン排出抑制法 他

【廃棄物・リサイクル対策】

廃棄物処理法 各種リサイクル法 他

【自然環境・生物多様性】

遺伝子組換え規制法

【大気環境・自動車対策】

大気汚染防止法

【水・土壌・海洋環境の保全】

水質汚濁防止法 下水道法
瀬戸内海環境保全特別措置法 他

【保健・化学物質対策】

消防法 毒物及び劇物取締法 PRTR法 他

【条例】

香川県環境基本条例 香川県生活環境の保全に関する条例
高松市環境基本条例 他



第三者意見

香川県環境森林部長の秋山浩章様よりご意見をいただきました

近年、世界的な平均気温の上昇に伴い、猛暑や干ばつ、局所的な豪雨など、気候変動による影響が世界各地で現れており、気候変動問題は、人類のみならず全ての生き物にとって、生存基盤を揺るがすものとなり、「気候危機」とも言われています。特に、今年の夏は、記録的な猛暑で、連日のように熱中症警戒アラートが発表され、私たちの日常生活においても、熱中症リスクの増加など様々な影響をもたらしており、地球温暖化対策は、喫緊の課題となっています。このほか、生物多様性の損失や海洋汚染、プラスチックごみの問題など、私たちは、今、様々な環境問題に直面しています。



香川県環境森林部
部長 秋山 浩章 様
あきやま ひろあき

香川県では、このような状況の中、「香川県地域脱炭素ロードマップ」に基づき、2030年度の温室効果ガス排出量を、2013年度比で46パーセント削減することを目指して、太陽光エネルギーの最大限活用など家庭や企業での脱炭素の取組みを着実に推進するとともに、海ごみ対策や栄養塩類管理などの豊かな里海づくりの取組みや、森林整備による吸収源対策のほか、希少野生生物の保護等の生物多様性の保全、循環型社会づくりに向けた3Rの推進などに取り組んでいるところです。

貴学におかれましては、地球温暖化抑制にも大きく資すると考えられる藻場に着眼して、産学官連携による「藻場から始まる豊かな瀬戸内海の創生」を目指し、先進的な藻場造成に取り組まれているほか、潮目におけるマイクロプラスチック分布調査や、賞味期限切れの希少糖シロップの添加によるコンクリート性能の向上という異業種をつなぐユニークな技術開発など、幅広い分野において、環境保全に貢献する研究に積極的に取り組まれていることを高く評価します。

また、大学だけでなく教育学部附属学校園での環境教育による人材育成や、「瀬戸内海分校プロジェクト」などによる地域への環境貢献を進めるとともに、学生主体の活動においても、ごみ削減や環境保全への意識を高めるためにリサイクルの推進などに取り組まれるなど、持続可能な循環型社会の構築に向けて、今後のさらなる展開が期待できます。

今後もこうした研究や取組みの継続とより一層の進展により、学術的研究成果を社会課題の解決やイノベーションの創出につなげていただくとともに、環境をはじめとする諸課題に取り組むための専門知識と、持続可能な社会構築のための広い視野をあわせ持つ人材を育成する貴学の活動に大いに期待しております。

大学概要

環境マネジメントの概要

SDGsアクションプラン

環境研究活動の紹介

環境教育による人材育成

地域への環境貢献

学生主体の活動

国際貢献活動

環境負荷の低減活動

第三者意見

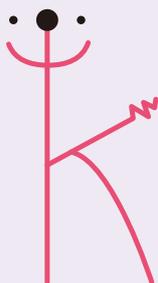
環境報告ガイドライン対照表

編集後記

環境報告ガイドライン対照表

この報告書は、環境省が2018年6月に発行した「環境報告ガイドライン(2018年版)」に基づき作成しています。

項目	記載ページ
環境報告の基礎情報	
1. 環境報告の基本的要件	目次
2. 主な実績評価指標の推移	22、23
環境報告の記載事項	
1. 経営責任者のコミットメント	1
2. ガバナンス	6
3. ステークホルダーエンゲージメントの状況	-
4. リスクマネジメント	30
5. ビジネスモデル	-
6. バリューチェーンマネジメント	29
7. 長期ビジョン	3
8. 戦略	3
9. 重要な環境課題の特定方法	22
10. 事業者の重要な環境課題	4-5
主な環境課題とその実績評価指標	
1. 気候変動	4-5、22-23
2. 水資源	4-5、27-29
3. 生物多様性	8、10、20
4. 資源循環	27-28
5. 化学物質	4-5、30
6. 汚染予防	29



香川大学キャラクター

細い線で「K」をモチーフにした動物(人)を描いています。「夢・個性」の発見に向けて、人一倍の「嗅覚(アンテナ)」を磨き生かし、知識、探求、思考、発想、実行を重ねながら、筋肉を身につけて魅力的な人となり社会に巣立つことをイメージしています。

大学概要

環境マネジメントの概要

SDGソリューション

環境研究活動の紹介

環境教育における人材育成

地域への環境貢献

学生主体の活動

国際貢献活動

環境負荷の低減活動

第三者意見

環境報告ガイドライン対照表

編集後記



編集後記

「香川大学環境報告書2025」では、本学の「環境配慮の方針」に基づく環境目標の達成に向け、「香川大学SDGsアクションプラン」に基づく推進プロジェクトをはじめとする2024年度に実施した様々な取組及び環境負荷の低減活動を紹介しています。また、これらの取組で得た成果や知見は地域の皆様へ積極的に還元しています。

本学では省エネルギー対策を推進するため、2024年度から2028年度の5年間で、2022年度を基準としエネルギー使用量、温室効果ガス排出量を原単位で5%削減することを努力目標に掲げ、全学を上げての省エネ活動や建物の省エネ改修など様々な環境負荷低減活動に取り組んだ結果、2024年度時点でエネルギー使用量は0.9%減、温室効果ガス排出量は8.2%減と、目標達成に近づくことができました。今後も、目標達成に向けて継続的に環境負荷低減活動に取り組んでいきたいと考えています。

結びに、本報告書の作成にご尽力いただきました学生・教職員の方々に厚く御礼申し上げます。また、香川県環境森林部長の秋山浩章様には、第三者意見としての貴重なご意見をいただきありがとうございます。頂戴した意見を参考に、本学の環境配慮活動を積極的に推進してまいります。

香川大学の環境に関する取り組みを継続・改善・発展させるために、学内外の皆様のより一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

2025年(令和7年)9月

理事・副学長(財務・施設・産官学連携担当)

国分 伸二



皆さまからのご意見・ご感想をもとに、今後の環境への取り組みや、環境報告書作成に活かしていきたいと考えております。お手数ですが、以下のアンケートにご回答いただければ幸いです。



<https://www.kagawa-u.ac.jp/kankyokanri/cgi-bin/kankyo00hon.cgi>

環境報告書に関するお問い合わせ

香川大学 施設環境部

〒760-8521 香川県高松市幸町1番1号
TEL : 087-832-1139 FAX : 087-832-1136
E-mail : sisetukikaku-h@kagawa-u.ac.jp

施設環境部長 高見 泰弘
施設企画課 渡邊 宏樹
課長 山本 大輔
課長補佐 岩山 勝幸
係長 山波 倫久
町川 大斗
吉田 里佳



大学概要

環境マネジメントの概要

SDGsアクションプラン

環境研究活動の紹介

環境教育による人材育成

地域への環境貢献

学生主体の活動

国際貢献活動

環境負荷の低減活動

第三者意見

環境報告ガイドライン対照表

編集後記

T H I N K

G L O B A L L Y

A C T

L O C A L L Y



この印刷製品は環境対策を推進している工場で製造されています。



t 1 6 3

このパンフレットは環境負荷低減に取り組む「環境推進工場」で生産し、有害な物質がほとんど出ない「植物油インキ」を使用しています。さらに、古紙利用を推進する「グリーンマーク」の基準に適合しており、製品の表面上に細菌の増殖を抑制する塗工を施した「SIAA（抗菌・抗ウイルス）マーク」にも準拠しています。